



「多賀城発で多賀城着。」

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。

発見! おしゃれスポットが意外な場所に!!



▲懐かしのレコードプレイヤーもあります。



▲音楽を聴いたり、お酒を飲んだり、カフェのようにも利用していただければとのこと。



▲「さくらビレッジ」外観。おじいちゃん・おばあちゃん・子どもたちが過ごす、大家族のような雰囲気魅力です。

多賀城市桜木地区で見つけたおしゃれなスポット。

どこにあると思いますか?

ここは、介護施設と保育園が一緒になった施設「さくらビレッジ」の一室です。

「さくらビレッジ」は、大好きなおじいさんの介護と別れを経験した代表の渡邊晃^{あきら}さんが、「一生涯、自分らしく人間らしく生きることを支えたい」という想いから2016年に立ち上げました。寝たきりの方が子どもに絵本を読んであげたり、子どもが階段を上がるおばあさんに自然に手を差し伸べたりと、世代を超えて人が集うことによるうれしい変化が日々生まれているそうです。

今後は夜の時間帯に、地域の人にも利用してほしいと考えているとのこと。「交流の機会をつくったり、サークルなどでも気軽に利用してほしいと思っています。『多賀城にこんな場所があればいいな』というものを、地域の人と一緒につくっていったらうれしいです」と渡邊さんは話していました。

代表の渡邊さん▶

多くの方に使ってもらうことで、入居者のみなさんの学びの機会にもつながればと思っています。

ご利用についてのお問い合わせ

運営：株式会社season 電話：022-365-9727
住所：多賀城市桜木2丁目2-22

さくらビレッジ 多賀城 検索



Hint from *Tagasapo Press*

ヒント from たがさぼPress

たがさぼのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します!

2018年2月15日(木)掲載 /
地域の大人も活躍する
「校内居場所カフェ」

2018年2月20日(火)掲載 /
NPO法人の
運営に役立つノート

2018年3月6日(火)掲載 /
データで見る多賀城
～気になる数:空き家編～

“たがさぼPress”とは?

たがさぼスタッフによるブログ。興味がわいたらたがさぼPressへ!
<http://blog.canpan.info/tagasapo/>



「tag」のアンケートへ ご協力をお願いします!



今後の誌面づくりの参考にしたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いします!

また、以下のような情報もお待ちしております!

- 自分たちの団体を取材してほしい
- ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている
- こんな話題を取り上げてほしい

Notice from Tagasapo

たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

たがさぼのホームページが新しくなりました!



探してみよう

たがさぼちゃんも
いらんところにも!

4月1日より、たがさぼのホームページが新しくなりました。
新設ページも登場し、さらに見やすく、わかりやすくなっています。
ぜひご活用ください!

<http://www.tagasapo.org/>

たがさぼ 検索

世代を超えたつながりづくりがもたらすもの

～「たがじょうのミライ」に向けて①～

今年、たがさぼは開館10周年を迎えます。7月に開催する記念イベントに向けて、「たがじょうのミライのことをはなそう」と題して市民のみなさんの想いや考えを出しあうプレイベントを2回行いました。今回は、そのうちVol.1の様子を紹介します。

1 世代を超えて集う場をつくるには？

2017年11月17日(金)に開催したVol.1のテーマは「世代を超えて集う場を地域でつくるカギ」。現代は単身世帯・核家族が増え、近所付き合いが減ったことによってコミュニティが狭くなっていると言われます。違う世代の人の考えや経験に触れることで、自分自身が支えられたり、周りの人を理解して支えることにもつながります。地域の中で世代を超えて集まるには、どのようなことが大切なのでしょう？対話を通してその「カギ」を探りました。

2 関わりやすい雰囲気や、特技や経験を活かせる場をつくる。

前半は、ゲストのお話。一人目のゲスト・渡邊晃さんが考えるカギは、「コミュニケーションを取ること」。会話を通して人となりを知り、「この人にはこれをお願いしよう」とその人に最も合った関わり方が見えてくるそうです。また、高齢の方から何う戦争の経験や仕事の話はとても勉強になると感じており、現役世代と高齢者が関わることのおもしろさも教えていただきました。



ゲストのお二人。[左] 大友みどりさん(「高崎こども食堂らっこ広場」副代表) [右] 渡邊晃さん(株式会社season代表)

二人目のゲストは大友みどりさん。「自分でできることをあえてやらずにお願ひすること」「得意分野を活かし、活動を楽しんでもらうこと」をカギとして挙げました。ボランティアの年代も多岐に渡っています。調理や子どもの遊び相手など、自分がやってもらいたいことをやってもらっているそうです。また、1歳から18歳と違う年齢の子どもたちが一緒に時間を過ごすので、普段ではできない貴重な経験の場になっています。

今後の予定
6月23日(土) たがじょうのミライのことをはなそう Vol.3
7月22日(日) たがさぼ10周年記念イベント
※詳細は、決まり次第ホームページにてお知らせします

3 多世代との関わりが、新たな自分づくりにつながる。



ゲストのお話に関き入る参加者のみなさん。年代も幅広く、地域で活動している方の参加もありました。

後半は参加者のみなさんとのトーク。仕事や活動、普段の暮らしの中で感じていることを伺いました。「働けない10～30代がいる。自分の居場所をまだ見つけられていないのかも」「学生にとって、自信をつけられる場があるといい」「自分の子どもには、地域のいろんな人と触れあってもらいたい」といったお話がありました。同世代だけ、あるいは狭いコミュニティでは見えてこないものも、多世代でつながりあうことで見えてきました。例えば、子どもが大人たちと接し、さまざまなことを学ぶ中で社会性が身についたり、大人たちもそこから新たな生きがいを見つけること、などです。最後に全員で、みなさんのお話を通して感じた「世代を超えて集う場を地域でつくる『カギ』」を発表しました。

こんな「カギ」が出ました

- 「行きたいな」と思った時にいつでも気軽に行ける場所。自分が自分らしく居られる場所。
- 老若男女誰が行っても受け入れてくれる、安心できる場所。たくさんできるといいな。
- 集まりに入りづらいと考へている方のための居場所づくり。
- 好き、楽しいを持ち寄れる場。



後半は参加者も交えてのトーク。場づくりのこと、多世代交流のこと、さまざまな考へや想いが出てきました。最後に参加者それぞれが考へた「カギ」を見せあいました。

このイベントについて詳しくは、「たがさぼPress」もご覧ください！
「たがじょうのミライのことをはなそうVol.1」開催しました(2017年11月26日(日)掲載)

What's ?



「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタッグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



@tagasapo

たがさぼのツイッターへのフォローをお願いします！



<http://www.tagasapo.org/>

2018年4月にリニューアル！
「たがさぼ」のホームページはこちら